

った。教育研究環境の整備は、平成 14 年 3 月の財政諮問委員会の答申に基づき、第Ⅱ期施設整備として平成 16 年 3 月に B 棟が新設され、情報工学部の 2 学科、情報処理センター、エレクトロニクス研究所、情報科学研究所、短期大学部、および学生食堂等の教育研究環境が整備された。さらに、同年 6 月には D 棟が新設され、残りの工学部 1 学科と情報工学部 2 学科の教育研究環境が整備された。以上のように、この数年間で、全学部の教育研究環境の大幅な整備計画が推進され、平成 16 年度（2004 年度）に整備は一応の完了をみた。

## （二）今回の自己点検・評価活動の目標と方法

今回の自己点検・評価の目標としては、中央教育審議会が平成 19 年度に示した「学士課程教育の再構築にむけて（審議会報告）」の中で、教育の質保証への対応を提言していることから、本学においても、今次活動の目標を『自己改革による教育の質の更なる向上』と設定した。その観点から、大学基準協会の「大学評価」で示されている「点検評価項目」のすべてを対象とした自己点検・評価活動を行うものとする。また、組織的な FD 活動が義務化されたことに伴う関連施策についても、自己点検・評価活動の中で検討を行う。

さらに、認証評価（相互評価）で受けた勧告・助言にも応える内容とする。

具体的な点検評価は、自己点検・評価委員会の主導下、部局方式で実施した。特に教育・研究に関わる領域については、学部長、研究科長および部長職等の主導による分科会を設け、より自律的、実質的な点検・評価活動を実施して行くものとした。

点検・評価に使用する「大学基礎データ」および教員個人の自己評価である「教育活動報告書」と「研究活動報告書」を 7 月中旬までに作成して委員会に提出し、7 月初旬の委員会において、情報を各分科会に周知すると共に各分科会と各部局間の調整事項を審議し、提出されたデータを基に点検・評価と執筆等に関する作業を開始した。以降、原則として月 1 回開催される委員会で点検・評価の内容および記述様式等を確認しながら、平成 21 年（2009 年）3 月、本報告書の完成をみた。